



シングルレバー混合栓

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、本書は別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、当社製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

製品仕様

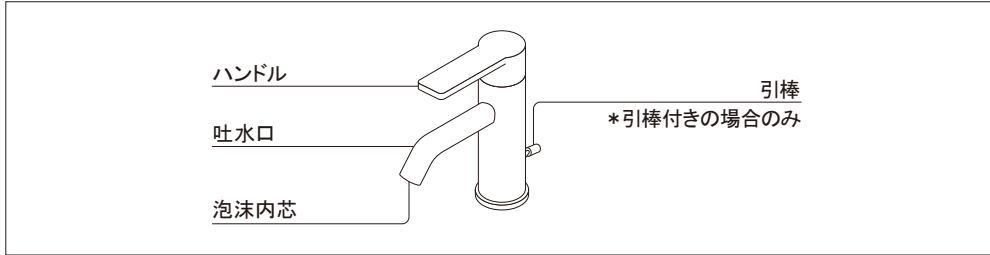
取付穴径	34～36ミリ
取付厚	5～35ミリ

製品同梱明細

施工前に、下記の同梱部材がそろっていることをご確認ください。

共通同梱部材	
●水栓本体 ●ジョイント金具・パッキン(各2個) ●六角レンチ(対辺2.5ミリ) ●取扱施工説明書 ●安全上のご注意 ●保証書	
引棒付き製品の同梱部材	
●引棒 ●引棒用連結金具	

各部のなまえ



* 品番によって図と製品の形状が一部異なります。

施工の前に

準備するもの



*左記に加えて、
●モンキーレンチ
●マイナスドライバー(*引棒付きの場合のみ)
をご準備ください。
*その他、施工に必要な配管部材等は別途ご準備ください。

施工方法

数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、止水栓または元栓を閉じて取付作業を行ってください。

1. 水栓本体を取付けます。

引棒付きの場合

①引棒付きの場合は、先に引棒(つまみ側)を水栓本体に差込みます。次に、引棒(連結側)を水栓本体下から組付けます。
*水栓を取付台に設置する前に作業してください。
*品番によっては、引棒(つまみ側)があらかじめ組付けられている製品もあります。

必ず実行

引棒を差込む際は、差込前に必ず引棒(つまみ側)と引棒(連結側)に分解し、正しく差込んでください。故障・作動不良の原因となります。

②水栓本体を設置する取付穴の穴径を確認し、穴周囲が汚れていないか確認します。
③支持金具から締付金具・ワッシャ・固定金具を外します。
*部品が別袋に入っている場合は、この作業は必要ありません。
④水栓本体底部に台座シートが付いていることを確認し、水栓本体が正面を向くように取付穴に差込みます。
*台座シートに剥離紙が付いている場合は剥がしてから取付穴に差込んでください。
*「後側」シールが貼付けられている場合は、そちら側を真後ろにします。
*水栓取付位置がシンク・洗面手洗器中央でない場合は、吐水口位置・回転角度に合わせて位置を決めてください。

⑤支持金具に固定金具・ワッシャを順に通します。

必ず実行

部品の順序に注意し、正しい順序で取付けてください。

⑥締付金具を仮締めし、取付位置を調節してから、締付金具を「立水栓取付工具」などでしっかりと締め付け、水栓本体を確実に固定します。

必ず実行

●締付金具は、締め付けすぎないでください。固定金具が変形するまで締め付けると固定力がなくなります。
●締付金具の締め付けには、適切な工具をご使用ください。締め付け時に、工具で給水・給湯ホースを損傷し、漏水の原因となる場合があります。

禁止

水栓本体を固定する際は、ハンドル部を持って締め付けしないでください。カートリッジに無理な力が掛かり破損する恐れがあります。

施工方法(つづき)

1. 水栓本体を取付けます。(つづき)

正しい取付状態

誤った取付状態

必ず実行

●水栓本体を固定した後に、位置を調節しないでください。無理な力が掛かり、器具の破損やゆるみの原因となります。
●水栓本体が取付穴の中心にくるように固定してください。偏って取付けると、確実に固定されない恐れがあります。

注意

●水栓本体が正しく固定されていないと、ガタつきや取付台下のキャビネット・流し台内への漏水、部品損傷の原因となりますのでご注意ください。
●台座シートが取付台に接していない箇所があると、取付台下のキャビネット・流し台内へ漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

2. 止水栓と接続します。

注意

パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。

注意

パッキンの入れ忘れにご注意ください。漏水の原因となります。

注意

ホースの「湯(赤)・水(青)」シールを確認し、逆配管にならないように接続してください。

必ず実行

給水・給湯ホースの曲げ半径は、60ミリ以上確保してください。急激に曲げると、ホースがつぶれて通水経路を狭め、十分な吐水量を得られない場合があります。

禁止

給水・給湯ホースは根元から急激に曲げないでください。ホースに傷が付き、強度が失われたり、ホースがつぶれて通水経路を狭め、十分な吐水量を得られない場合があります。また、漏水を起こす恐れがあります。

注意

給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

3. (引棒付きの場合)引棒とキック棒を接続します。

引棒用連結金具部

①排水金具のキック棒を下げた状態で、引棒用連結金具の固定ビスAを締め付けて、引棒に固定します。
②引棒を上げたときに、排水金具の排水栓が閉じるよう引棒用連結金具を調節します。
③固定ビスBを締め付けて、キック棒に固定します。
*調節後は固定ビスA・Bをしっかりと締め付けてください。

施工後の確認

- ①止水栓または元栓を開き、各部に漏水がないか確認します。漏水が発見された場合は、止水栓または元栓を閉じ、漏水する箇所を施工し直してください。
- ②ハンドルを操作して、湯水の混合具合および吐水状態を確認します。適量・適温で吐水しない場合は、こんな時には… 簡単な点検と対処 を参考に調節してください。

使用方法

ハンドルの操作方法

吐水・止水

ハンドルを上げると「吐水」、元に戻すと「止水」します。

湯・水

ハンドルを開いた状態で左にまわすと「湯」、右にまわすと「水」が出ます。

必ず実行

●湯をご使用時は、最初は必ず水から出してください。その後ゆっくり湯側へ開き、お好みの温度に調節してください。ハンドルを湯側から先に開くと高温の湯が出てやけどをする恐れがあります。
●ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉じると配管に衝撃が加わり、配管から漏水を起こし、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

注意

ハンドルを操作する際は、ハンドルと水栓本体の間に手指等をはさまないようにご注意ください。

引棒付き水栓の使用上のご注意

禁止

水栓本体の引棒穴に直接水をかけないでください。水がキャビネット内部に入る恐れがあります。

裏面へ続く➡

凍結防止方法

水栓周囲の温度が0℃以下になり凍結の恐れがある場合は、下記の方法で凍結を予防できる場合があります。

少量
出しておく

- 配管を保温する。
- 水栓から水を少量出しておく。(目安:1分間に200ml程度)
- 外気が入らないよう窓等を閉める。

*凍結により破損した場合は、保証期間内でも無償修理の対象外となります。

お手入れ方法

泡沫内芯のお掃除

泡沫内芯
コインなど

ご使用開始時に比べて著しく水の出が悪くなった場合は、吐水口先端の泡沫内芯を取外し、ゴミなどの異物を水洗いして取除いてください。

器具のお手入れ いつまでも美しくご使用いただくために

酸性・アルカリ性洗剤
漂白剤
クレンザー
シンナー
アルコール
金属たわし
メラミンスポンジ

塗装剥がれ

乾いたやわらかい布でお手入れしてください。
汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いたやわらかい布で水気を拭き取ってください。汚れを長期間放置すると落とすきれなくなる恐れがありますのでご注意ください。

禁止

- 以下のものは使用しないでください。器具の変色・破損・劣化および塗装面や印字部の剥がれの原因となります。
酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、漂白剤、シンナー・ベンジン等の溶剤、アルコール等の薬品、油、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、金属たわし、熱湯、スチームクリーナー
- 塗装面・印字部、樹脂部にはメラミンスポンジを使用しないでください。塗装面や印字部の場合は剥がれの原因となり、樹脂部の場合は傷が付く恐れがあります。

カートリッジの交換方法

準備するもの

差込み長さ
30ミリ以上

26ミリ

外径35ミリ以下

六角または十二角ソケット
(対辺26ミリ)

*左記に加えて、
●マイナスドライバー
●ラチェットハンドル
をご準備ください。

交換方法

作業前に、必ず止水栓または元栓を開じて止水してください。

ハンドル
カバーキャップ

①ハンドルを上げ、カバーキャップ切欠部に「マイナスドライバー」などを差込んで上に開きます。

六角レンチ
約2回転

②「六角レンチ(対辺2.5ミリ・同梱)」で六角ビスを2回転ほどまわしてゆるめます。

③ハンドルを斜め上方向に抜取ります。
④軸を手で手前に戻します。
⑤カートリッジカバーの内側に「マイナスドライバー」などを引っ掛けて、少し浮かせてから上に抜取ります。

軸を手前に戻す
(上面図)

④

軸

ラチェットハンドル

ソケット
(対辺26ミリ)

締付ナット

⑥指定寸法の「ソケット」と「ラチェットハンドル」で、締付ナットを反時計回りにまわしてゆるめ、古いカートリッジと一緒に締付ナットを取外します。

新しいカートリッジ
Oリング
凸部

カートリッジケース*

*古いカートリッジのものを使用

底面図

切欠部

カートリッジケース

三角部

カートリッジケースの向きに注意してはめ込む

側面図

カートリッジケース

三角部

凸部

三角部の先端がカートリッジの凸部よりも上になるように挿入する

⑦古いカートリッジからカートリッジケースを取外し、新しいカートリッジに付替えます。
* カートリッジを本体から取外す際、水栓本体内にカートリッジケースが残る場合があります。その場合は、水栓本体からカートリッジケースを取出してからこの作業を行ってください。

必ず実行

カートリッジケースは、図を参考に上下・向きを確認し、正しく取付けてください。また、取付後はカートリッジケースの三角部の先端がカートリッジの凸部よりも上になるように挿入されていることをご確認ください。正しく取付けられていない場合、破損する恐れがあります。

注意

カートリッジケースの取出し・付替えの際は、カートリッジケースの外側やOリングを傷付けないようご注意ください。

カートリッジの交換方法(つづき)

交換方法(つづき)

水栓本体側

凹部

新しいカートリッジ

INSERT

ベースパッキン

Oリング
凸部

⑧新しいカートリッジの底にベースパッキンがついていることを確認後、カートリッジ底の凸部が水栓本体の凹部に合うように差込みます。
⑨①～⑥の逆の手順で組直します。
*ハンドルを取付ける際は、六角ビスの向きにご注意ください。

注意

取付けの際に、カートリッジケースの外側を傷つけないようご注意ください。

●ハンドル内にINSERTが残っている場合は、INSERTを取外してください。
●カートリッジ底にベースパッキンが付いていることをご確認ください。
●カートリッジ底の凸部を水栓本体の凹部に合わせてください。
●締付ナットは適度な力で締付けてください。(締付けすぎるとハンドルが操作しづらくなります。)

作業後は、必ず止水栓または元栓を開いて通水し、漏水がないことをご確認ください。

分解図

ハンドル
六角ビス
カートリッジカバー
締付ナット
カートリッジ
ベースパッキン
カートリッジケース
給湯ホース
給水ホース
ジョイント金具
パッキン
締付金具
ワッシャ
固定金具
支持金具
泡沫内芯
水栓本体

【引棒付きの場合】
引棒
引棒用連結金具

*図は代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。
*製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に動かない時は、修理を依頼される前に、**分解図** を参考に下記の要領で点検してください。

	現 象	原 因	対 処
温度調節不良	高温しか出ない	水側の止水栓が閉じている	水側の止水栓を調節する
		給水圧より給湯圧の方が高い	止水栓を調節する
	低温しか出ない	湯側の止水栓が閉じている	湯側の止水栓を調節する
		給湯圧より給水圧の方が高い 給湯機の能力(給湯機の異常)	止水栓を調節する 別紙「安全上のご注意」の 使用条件 をご参照ください。
吐水不良	吐水量が少ない	止水栓または元栓を閉じすぎている	止水栓または元栓を調節する
	全く吐水しない	泡沫内芯の目詰まり	泡沫内芯を掃除する
止水不良	止水できない	止水栓または元栓が閉じている	適正水量になるまで止水栓または元栓を開く
	ハンドル根元から漏水	カートリッジの異常	カートリッジを交換する
	ハンドル根元から漏水	締付ナットのゆるみ カートリッジの異常	締付ナットを締める カートリッジを交換する
動作不良	ハンドルがガタつく	六角ビスのゆるみ	六角ビスを締直す
	ハンドルが効かない	締付ナットの締めすぎ カートリッジの異常	締付ナットを適度な力で締直す カートリッジを交換する

以上の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。

分解禁止

本体内蔵のカートリッジや部品等は、絶対に分解しないでください。故障の原因となります。

修理を依頼される前に

000-0000

品番

お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせいただく際、水栓本体にシールが貼付けられている場合は、そちらで品番をご確認ください。